

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日：平成 19 年 9 月 11 日

(ふりがな) やまもと ひろゆき

氏名：山本 啓之

所属(職名)：海洋研究開発機構・極限環境生物圏研究センター(主任研究員)

会議名	10 th IODP Science Planning Committee (SPC)
会議期間	2007 年 8 月 27 日 ~ 30 日
用務地(国・都市)	USA・Santa Cruz
目的	第 10 回統合国際深海掘削計画科学計画委員会 (IODP SPC) による掘削計画の審議
会議内容及び報告事項	<p>日本側 SPC 委員：James J. Mori、山本啓之、丸茂克美、佐藤博明、益田晴恵、大河内直彦、徐垣(徳永委員の代理)</p> <p>1. SASおよびIOからの報告等 SASパネルより状況の報告を受ける。現在、SASのパネルに対しては、委員の人数(日米7名から5名へ)やパネルによっては開催回数を削減することがSASEC WGにて検討され、今後はこの案にもとづいてパネルの再編が図られる予定である。STPからはIODPでのサービスを縮小に関する提案が示された。これらの動きはIODPの予算が原油高などの理由で実質的に不足している事態を受けた経費削減の措置である。</p> <p>2. 掘削船の運航計画 2008年以降の掘削船運航計画では、米国「SODV(JRの改装船)」の復帰予定が2008年5月以降となり、赤道太平洋での掘削からIODPに投入される日程が承認された。現在、「ちきゅう」及び改装した「JR」が年間約7ヶ月間、MSPが2年に一回(約2ヶ月間)の運航を目標として計画が立案されている。この2008年からの運航には、「ちきゅう」及び「JR」の両船ともnon-IODPでの掘削行動がその一部として組み込まれる。予算逼迫の影響を受けて、2009年度の運航計画にも大きな変更案が出され、これを承認した。また、2010年度以降の「JR」航海については、大西洋、太平洋とインド洋の3つの海域のうち大西洋での行動を最優先に航海計画を策定することを了承した。</p> <p>3. OTF掘削提案の再審議 運航計画が変更を余儀なくされたことで、2009年3月以降のスケジュールに載せる掘削提案について再審議をして優先度を定める必要性が生じた。特に、実施単価がかさむCORKについては慎重な審議なされ、677 Fullと693 APLを優先して実施することが決められた。このような掘削提案の再審議は今後も発生すると考えられる。 現在までにOTFの段階まできている掘削提案は、今後航海数が減少するに従って、実質的にIODPの第一期の期間内で執行できない状況が発生してくる。これにどう対処するのかは、今後における重要な検討事項である。</p> <p>4. 新規 Mission 及び CDP 申請案の審議 今回は、Missionを3件、CDPを2件、それぞれ審議した。審議の結果、Mission MonsoonはDPGを立ち上げる件が承認された。Mission Mohoについてはunbundle the component proposalsが了承された。結局、Missionとしては一つも認められなかった。また、CDPについては提案1件関東アスペリティ(707 Full2)のみが承認された。</p> <p>5. Complementary Project Proposals (CPP) の新設 外部資金を導入した掘削計画を受け入れるため、新たな規定にもとづく掘削提案の様式が承認された。これにより、企業やIODP非加盟の機関からの掘削提案を受理できることになる。受理された提案はSASにおいて審議される。</p>

6. ISPの更新

IODPの第一期の後半(Phase 2: 2008-2013年)に向けて、ISPの更新として重点領域の実行計画案(IODP Implementation Plan: 2008-2013)がSASECから提示され、今回のSPCで内容を検討した。加筆修正については、会議終了後もE-mailにより各分野の担当者へと送られ、内容が取りまとめられる。

7. 委員の退任

今回の会議で山本啓之, Keir Becker, Tim Byrn, Barbara Bekins, Chris MacLeodの5名が退任した。